

2019年度しあわせ研究

働きながら学ぶナースのレポート作成に対する効力感を向上する

研究員 池口佳子

野口普子、菊地ひとみ



現在、看護系大学は272校となり、国家試験合格者全体に占める大卒者の割合は36%まで増加した(2019年)。しかし、3年間で看護師を養成する専門学校は減少しておらず、卒業生は国家試験合格者の約半数を占めている。そのため臨床現場には、同じ国家資格を持ちながら、学士(看護学)をもつ看護師と学士をもたない看護師が混在している。他方、看護職の職能団体である日本看護協会は、高度実践能力を有する看護師を育成するために看護基礎教育の高等教育化(4年制化)を推進している。このような時代の流れもあり、現在本学の通信教育部看護コースにおいては、学士(看護学)を目指す看護師約800人が科目等履修生として学んでいる。

看護系大学においては、卒業論文(またはそれに準じるレポートなど)が課されることが多いが、専門学校においては長文のレポート作成方法を学んでいない。そのため学生は学位申請要件である積み上げ単位の科目の履修ができて、申請のための学修成果レポートの作成に困難を感じる人が多い。そのため、懇談会やスクーリング

等で学生の声を耳にすることが多かった研究者らは、しあわせ研究所の助成を受けて、学修成果レポートの作成を支援するプロジェクトを立ち上げることにした。

学習支援を通して、レポート作成に関する自己効力感を向上することができると考えたのである。2019年9月から、対面でセミナーやワークショップを行なう体面コースと動画を視聴しながらレポート作成を進めていく動画コースの2つのコースで研究協力者を募集し、プロジェクトをスタートさせた。半年間で3回の学習支援セミナー・動画配信を行ない、現在調査票の回収を行なっているところである。まだまだ改善の余地がある学習支援であると考えているが、どのような成果が得られたのか、結果が楽しみである。次年度は、この成果を本コースの教育カリキュラムに活かす方策を検討する予定である。

しかし、学修成果レポートを作成して、学位を取得することが最終目的ではないことを、本コースで学ぶ看護師たちの入学志望動機が物語っている。患者さんのために看護の質を向上したい、後輩の指導に活かしたい等、彼らの目指す夢(=しあわせ)は大きく広がっている。教育者として、彼らの夢を支援する「しあわせ」を感じられたプロジェクトであった。